



社外にヒューマンファクターの見方・考え方を広める活動について

安全研究所
岡本 有弘(左)
上杉 卓正(右)

1. 概要

安全研究所は、平成18年6月の設立以来、9年間にわたって、主に現場に対するヒューマンファクターに特化した研究を行い、現場の安全性向上に寄与しています。また、安全研究所の研究成果は、社内ばかりでなく、社外へも広める活動を行っており、本稿では、今年度の活動の一部を紹介します。

2. 第5回 国際鉄道ヒューマンファクター会議への参加

この国際会議は、イギリスの「RSSB」社（鉄道研究を行うイギリスの公的機関）が主催している国際会議で、2年毎にロンドンで開催されています。安全研究所では第4回の国際会議から参加しており、今回は2回目となります。今回は運輸部とともに参加し、安全研究所からは以下の2件の発表を行いました。

(1) 運転台検討WGでの活動と成果の紹介

運転台検討WGは、平成23年度から平成25年度にかけて「次世代車両の運転台はどうあるべきか？」について、運輸部（運転士課）と車両部（車両設計室）、及び安全研究所（人間工学研究室）が合同で調査・検討を行った活動です。発表は、口頭形式で行うものでした。内容は、理想的な運転台を追求するため、運転台検討WGで人間工学的な視点で行った実験内容を紹介し、その成果が227系の運転台にも反映されたこと（速度計の拡大など）を紹介しました。質疑応答では、実用的な内容のご意見を多く頂きました。

(2) 安全研究所の活動紹介

この発表は、ポスター形式で行いました。内容は、安全研究所設立の経緯や、これまでの活動や研究成果を紹介しました。他国においてもヒューマンファクターに対する取組みには関心が高く、当社の取組みに関心が寄せられました。特に平成19年に作成した「事例でわかるヒューマンファクター」については、「WEB公開されていないのか？」や「英語版はないのか？」などの質問が寄せられました。

3. 第2回 ヒューマンファクターシンポジウムの開催

第2回ヒューマンファクターシンポジウム（安全研究所主催、関西鉄道協会共催、国土交通省近畿運輸局後援）を9月に開催しました。このシンポジウムは、鉄道軌道事業者が一堂（参加者45社337名）に会し、ヒューマンファクターを核に鉄道の安全性向上について議論をいたします。シンポジウム

は、前半に日本鉄道運転協会顧問の石井信邦様から「人に軸足を置いたシステム作り」と題して基調講演をいただきました。また、後半では、「ホームの安全対策」をテーマに国土交通省近畿運輸局次長、鉄道軌道事業者4社の安全統括管理者がパネリストとなり、ホームの安全に対する取組みや今後の展開など活発な議論が行われました。



図1：パネルディスカッションの様子

4. ヒューマンファクター研究会の開催

「ヒューマンファクター研究会」とは、「ヒューマンファクターシンポジウム」を契機に、近畿運輸局の要請を受け、安全研究所と関西鉄道協会などが中心となり、関西の公民鉄、第3セクターなど37社局で平成25年11月に発足した研究会です。この研究会では、安全研究所の研究成果を中心に年1～2回の勉強会と有識者を招いた年1回の特別講演会を開催しています。今年5月、3回目の開催となったヒューマンファクター研究会では、「ホーム設置のカメラ映像から分析した転落に至る酔客の行動パターン」の研究成果やこの研究成果を活用した遠隔セキュリティカメラシステムを紹介したところ、「暴行被害に遭いにくい、酔客への声かけ方法」や「遠隔セキュリティカメラシステムの詳細」等、活発な意見交換が行われました。